



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page: http://www.nichiro.org

〒106-0041東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



2026年、新年のお慶びを申し上げます



親愛なる友人の皆様、2026年、明けまして心よりお慶び申し上げます。
昨年に60周年を迎えた日口交流協会は、今、文化、教育、科学及び地域交流などの分野におけるロシアと日本の関係の着実な発展に大きく貢献している有力な組織であります。

貴協会を創立者が掲げた眞の友情及び善隣関係といった理念に沿って、二国間の様々な分野におけるコミュニケーションの維持と拡大に向けたたゆまぬ努力を重ねてきた協会会員の皆様に感謝申し上げます。

この理念は日本との関係構築に対する我々のアプローチの基礎であり、政治情勢の変化を問わず揺るぎない相互関心を抱く両国民の交流を維持するための取り組みの出発点となっています。

本年は、ロシアと日本の平和と繁栄のために輝かしい成果をもたらす年として記憶に残るよう願っております。協会会員の皆様のご健康、ご多幸、新たなご成功を心よりお祈り申し上げます。

駐日ロシア連邦特命全権大使 ニコライ・ノズドリエフ

拝啓、日露交流協会の会員の皆様に、来る2026年の新年をお祝い申し上げます。

私たちの社会は長年にわたる強い絆によって結ばれており、さまざまな状況や障害にもかかわらず、共に長く輝かしい道を歩んできました。私たちは、両国間の良好な信頼関係の強化を目的とした実りある協力が今後も続くことを、そして、困難で崇高な道の中で素晴らしい取り組みが成功することを願っております！

露日協会アルタイ支部長ビヤチェスラフ・ノボセロフ

お知らせ

●ロシア料理講習会

日時：2026年2月7日（土）10:00～14:00

場所：田町「リープラ」料理室

●ロシア語の泉（16）

2026年1月18日、2月15日、3月15日（日）13:30～16:00

授業料：会員7000円、一般8500円（全3回）

講師：スニトコ・タチヤナ

●春の祭典「マースレニツツア」

日付：2026年2月22日（日）

●ロシア語教室生徒募集中！

レベル別クラスを経験豊富なロシア人教師陣が担当いたします。プライベート、オンラインレッスンもあり見学も1回可能です。定期の教室は入会していただいております。

●ロシア民謡を楽しむ会会員募集中！

アルト、バスの方が不足しております。ロシア人ピアニストの先生の指導のもと、楽しく歌いませんか。

Fax:03-5563-0752 E-Mail: nichiro@nichiro.org

NPO法人日口交流協会の会員の皆様並びに関係の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、会員並びに関係の皆様のご支援、ご協力を賜り「日口交流協会創立60周年記念パーティー」を在日ロシア連邦大使館のご協力を得て、約200名の参加者で盛大にお祝いすることができました。心より御礼申し上げます。



当協会は永年の歴史を踏まえ、これからも70周年、100周年を目指し、日本とロシア市民同士の草の根的な活動を大切に心が通う交流で益々発展していくことを強く願っております。

日口交流協会は政治、外交などには関わらない方針の基、日本とロシアの一般市民間では草の根的な交流を銳意進めておりますが、昨年は引き続き社会情勢が厳しい事から、在日ロシア人等との交流活動が主となりました。

ロシア等の家族参加の交流バスツアー、着物体験、いけばな教室、日本・ロシア・キルギス各国の料理講習会、手書き友禅教室、「麻布区民センターふれあいまつり」にロシアの子供達の歌と踊り「ロシアンカ」の参加協力、板橋の花火大会など多くの日口交流イベント活動ができました。

現在、日本とロシア間では航空便は運休の上、日本ではロシアへの渡航も自粛が求められています。従ってロシアに行く日本人はビジネス関係等の少人数の方々です。

しかしロシア関係の日本への観光客は、昨年（2025年）1月から8月の累計によりますと既に10万8千人となり、日本が大好きなロシア人が多いことです。

厳しい日本とロシア情勢におきましても、このような状況から分かるように政治や外交問題に関わらず両国の市民間では交流を大切にしており、引き続き文化や人的交流を深めていきたいと思っております。

本年も当協会へのご理解、ご支援・ご協力を願い申し上げますと共に、平和な世界と皆様の幸多い年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせて頂きます。

NPO日口交流協会会長 服部文男

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいかで結構です。なお、寄付とわかるようにお名前の前に番号「01」と入れてください。

岡崎好典氏にご協力いただきました。ありがとうございます。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会

連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail:nichiro@nichiro.org



日本料理講習会（3）

安部 花子

11月22日、田町リープラでの日本料理講習会に参加しました。安部と申します。前回初夏の参加から実に半年ぶりに参加した日本料理講習会、今回も我らが小野田先生に素晴らしい和食をたくさん教えていただきました。



今回の献立は、牡蠣飯、こづゆ、レンコンのはさみ焼きの3点。こづゆとは魚介の出汁を使い、里芋や人参、椎茸、しらたき、麸などが入った薄味のお吸い物で、正月や冠婚葬祭など特別な日に食べる福島県会津地方のおもてなし料理。会津に旅行したことがあるにも関わらず存在を初めて知りました。ロシア人にとっても新鮮で、日本人にとってもありふれていらない、両国の参加者が楽しく作って美味しく食べられる献立を考えるのって結構難しいことだと思うのですが、小野田先生はいつも「その手があったか！」と膝を打つようなメニューを次々と企画されるので毎回驚かされます。

まずはこづゆの具材を切っていきます。しらたきのあの独特な感触にロシア人はたじろいでしまうのではないかと少し心配だったのですが、茹であがったしらたきを難なく3センチ幅に切っていく手際の良いロシア主婦たち。ロシアと日本は世界的に見ても調理時間が長い国だそうで、料理上手な人の割合が多いのかもしれません。ロシア人と料理教室に参加するときにいつも感じるシンパシーの正体はこれかもしれない、なんて思いながら料理上手「じゃない」方の割合にいる私は必死に具材切りを手伝えます。

今回のベストショットは、間違いなくレンコンのはさみ焼きづくりでした。フライパンで焼き上げる前の、鶏肉を挟んで片栗粉

でお化粧をし、トレーにきれいにならべられたレンコンの美しい断面をロシア人たちが夢中になって撮影していました。ロシアでは蓮の花自体は知られていますがその根っこであるレンコンを食べる習慣はないそうで、あのような穴ぼこのビジュアルはあまり知られていないかもしれません。そういう観点で見てみると、野菜の中では地味な印象を持たれがちなレンコンが、何よりも美しい野菜に思えてきます。お釣り様の台座は伊達じゃありません。

牡蠣飯が炊きあがり、炊飯器を開けたらいい匂いが！いざ実食です。牡蠣の旨味と生姜の香りにしっかりと風味付けされた牡蠣飯は、余ったらおにぎりにして持つて帰りたいほどの滋味深い味わい。残念ながら完食でした。この米はどこで買えるのか、米の種類から特定し味を再現しようと試みるロシア人参加者も。そして、牡蠣飯とレンコンのはさみ焼きが割とパンチの効いた味なので、この薄味のこづゆが箸休めとして大変良い仕事をします。ロシアにはじやがいもはあっても里芋はないそうで、今回初めて里芋を食べてみたら大変美味しいとのコメントでした。特にお気に召した様子だったのは、なんと「麸」。「このふわふわしたものはとても美味しい！名前は何？え？ふ？…『FU』？」確かに聞き返したくなるような、たった一文字の変わった名前の食べ物です。レンコンのはさみ焼きは、醤油と砂糖で照り焼き風に焼いた甘じょっぱい味わいがクセになってしまったのか、ぜひ家でも作ってみたいという声が多数。今回の料理教室も大成功に終わりました。

シベリアっこが懐かしがるものとは

多田 麻美

シベリア出身の夫、スラバ・カラッテとともに、日本とロシアの間を行き来する生活を続けて8年ほどになります。文化というものは、「ある」時はもちろん、「無い」時にもその性質を露わにするものです。いやむしろ、無い時の方が存在感を見せつけたりします。

日本人が海外に住んだ時、恋しがるものは何でしょう？おいしいお米のご飯や味噌汁などではないでしょうか。食生活が多様化した現代でも、それらはやはり日本の人々の生活にしっかりと溶け込んでいるからです。

一方、シベリア出身の夫が日本に住んでいる時に恋しがっている食べ物は何でしょう？答えは「ウクロップ（ジル）、ボルシチ、ペリメニ、ポーズィ（小麦粉の生地で肉を包んで蒸したもの）、スマタナ、スィルニク（小麦粉と乳製品を生卵などと一緒に混ぜて焼いたもの）」など。やはり小麦粉や乳製品の存在は欠かせません。

もちろん、海外にいると懐かしくなるのは食べ物ばかりではありません。友人や家族はもちろん、生活環境や身近な風景なども同様です。中でもシベリアっ子たちの多くが恋しがるのは、やはり雪です。雪は、多すぎるといろいろと不便ですが、まったく無いのも寂しいもの。雪はロシアの人々にとって、雪遊びや雪だるま遊び、新年、クリスマスなど、楽しい記憶とも結びついていることが多いからでしょう。スキーやスノーボードなど、冬の運動が大好きならなおさらです。

水も同じです。アイス・スケート、氷の滑り台、冬に道端を飾

る美しい氷の彫刻など、氷は楽しく美しい記憶とつながりやすいものです。とくに氷の滑り台などは、大人も子供も楽しめる娯楽で、中には大人でも滑るのに勇気がいるほど急こう配で滑るとスリル満点のものがあります。

中には「寒さ」を恋しがる人もいますが、知る人ぞ知る通り、ロシアの人は意外と寒がりです。全室暖房が普及しており、温かい部屋で暮らすのに慣れている人が多いからでしょう。もっとも、サハなどの大変寒い地域に住むシベリアっ子には、ちょっと独特の感覚があるようです。イルクーツクのようなシベリア南部の冬を、「なまぬるくて気持ち悪い」と言う人がいるからです。そんな人たちにとって東京や大阪の冬は、とても冬とは呼べないものなのかもしれません。

雪や氷と比べ、風景については、懐かしがるといつてもその具体的な風景は百人百様でしょう。木造やレンガ造りの家が並ぶ古い町並み、近代的な集合住宅、ペチカや奥深いタイガの森林、そしてゆったりと流れる河川など、真っ先に思い浮かべる風景はそれぞれがシベリアで経験した暮らしによって少しずつ異なるはずです。そしてその風景は観る側の人間と観られる側の風景、それぞれの条件の変化によって変わっていきます。観る人それぞれの人生や環境および時代の変化によって、姿を変えていくのです。

そんなシベリアの風景を追求した作品の展覧会が、間もなく東京の国分寺で始まります。ご興味のある方は、ぜひ足を運んでみて下さい。＊1/16（金）～21（水）「カフェスロー」にて

18・19世紀にロシア人医師から外科手術を受けた二人の日本人

倉田 有佳

北海道の南に位置する函館では、厳寒期でもマイナス10度以下を記録することは珍しい。初代駐日ロシア領事館の開設とほぼ同じ頃、函館に設置された「ロシア病院」の初代医師アルブレヒト（Михаил Альбрехт／在函期間1858～63年）は、1859年から4年間にわたり気象測器を使用し観測記録した。これが日本で最初の気象観測で、今から10年程前にこの結果の分析を試みた研究者は、函館の最近30年間の平年値よりも当時は約2度低かった、と述べている（※）。

現在は断熱材入り住宅が普及しているが、60代半ば以上の函館出身の方々からは、子どもの頃は、建て付けの悪い木造家屋では家の中に雪が吹き込むこともあった、と聞いている。

幕末開港期に函館にやって来て凍傷にかかった伊勢出身の田本研造（1831～1912年）は、壊疽した右脚の切断手術をロシア病院で受けた。手術したのは、二代目ザレスキー医師の時代（Залесский／在函期間1863～66年）にロシア病院に勤務していたマトヴェーエフ准医師だったようである。

18世紀までの西洋は、薬草重視の治療法という点で漢方と大差がなかったが、人体の構造を探究する解剖学だけは抜きん出でていた。それが19世紀中葉、麻酔と消毒法によって外科の分野は飛躍する。

そうした西洋での動きよりも半世紀ほど前、18世紀末のロシアで凍傷



立待岬近くの田本研造の墓（函館）

による外科手術を受けた日本人がいた。伊勢の白子から「神昌丸」で出航し、ロシアに漂着した大黒屋光太夫一行の庄蔵である。1792年にアダム・ラクスマンに伴われ、ロシアから初めて帰国を果たした光太夫と磯吉への聴き取りを基に蘭学者桂川甫周がまとめた『北槎聞略』には、ヤクーツクからイルクーツクに向かう途中で凍傷にかかった庄蔵の病状や治癒の方法が詳しく記されている。興味深いのは、凍傷がカムチャツカやオホーツクあたりでかかることが多い病気で、現地にはその分野の医者が多かったこと。足がない人たちを漂流民たちは多数見かけたが、欠損した箇所に木の棒を添え（義足に相当）、杖を使って自由に歩き回っていた、などと証言している点である。

ロシアに帰化し、イルクーツクで日本語教師となり、同地で生涯を終えた庄蔵。術後にロシア人から写真術を習い、北海道初の職業写真家となった田本研造は、片足が義足だったため、カメラの運搬や組立、撮影場所の設営や写真撮影に助手や門人の手助けを必要とした。しかし、その写真技術は余人をもってかえることができなかつた、と評価は高い。

伊勢という温暖な地から寒冷地に移り住み凍傷にかかつた二人。時代も場所も異なるが、彼らを救ったのは、極寒の地で育まれた知見と外科技術だった。

（ロシア極東連邦総合大学函館校教授）

（※）財城真寿美、木村圭司、戸祭由美夫、塚原 東吾「幕末期（1859～1862年）のロシア領事館における気象観測記録と気象データの均質化にもとづく函館の気温の長期変動」『地理学論集』Vol. 89、No. 1（2014年）。

2025年夏 ウラジオストク・ハバロフスク訪問記（2）

岡崎 好典

8月29日の17時20分ごろ、無事にウラジオストク国際空港に着いたところまではよかったです、ロシアに入国するのがたいへんでした。飛行機を降りてイミグレーションに着いたら、入国審査のブースの前にはたくさん人が並んでいて、少しでも人の少ない列を選んで並んだのですが、順番が来るまで1時間ほどかかりました。そして、いよいよブースでパスポートと印刷した電子ビザを提示したのですが、係員は困惑した様子で、事務所に問い合わせをしたりしていました。しばらくして、係員はブースから出てきて、私をイミグレーションの事務所入口の前に並ぶように案内しました。

そこに着くと、すでに5人くらいの人が順番待ちをしていて、私は非常に緊張した気持ちになりました。それでも、すぐに私の前の人が話しかけてくれました。その人は韓国人でしたが、日本語を少し話せる人でした。その人は、自身もこのような入国審査は初めてだと言っていましたが、これからどのような体験をするのかの情報は少しあ持ちのようで、私に話してくれました。その情報を聞いて特に問題となるものは私にはなかったですが、それでも、ロシアの入国審査ですから、不安な気持ちがいっぱいありました。

その後は、その韓国人と話をしながら待っていたのですが、ひとりひとり事務所の中で入国審査をしているために、1時間経過しても順番が回って来ず、時刻はすでに19時30分になろ

うとしていました。まだほかに私には心配事がありました。たとえこの先、入国できたとしても、空港から街までどうやっていくか明確に決まってなかつたのです。街まで50キロ以上ある中で、鉄道は夕方で終わることは知っていたものの、バスのことはよくわからない。それで、タクシーで行くしかないと漠然と思っていたものの、タクシーカウンターはよくわからない。タクシーアプリは入れていないから呼び方がわからない。ぼつぼつタクシーにも乗りたくない…。そこで、私は、前の順番の韓国人がアプリでタクシーを手配すると言っていたことを思い出し、勇気を出して、その韓国人に、「申し訳ないですが、私が入国するまで空港で待っていていただけないか、割り勘でタクシーと一緒に乗せていただけないか」とお願いしました。親切にもその韓国人は私のお願いを快く聞き入れてくれました。いい人です。

すでに20時を過ぎて、とうに待ち疲れたところで、私の前の韓国人が事務所から出てきて、入国してきました。私の後ろには誰もいなかつたので、イミグレーションで、そしてその事務所の前で待っている人は私ひとりになりました。入国審査のブースはすでに消灯され、クローズしていました。その後、事務所の係員がなかなか私を呼びに来てくれず、もしかしたら、私が待っているのが忘れられているのではないかと不安に駆られ、自分から事務所に入っていくかどうか、しばらく真剣に迷っているところで、ようやく係員が私を呼びに来ました。（副会長）

消えゆく手書き、筆記体のこと

大原 翔

テレビで政治家の記者会見をライブ中継で見ることがある。政治家が話し始めると、記者たちは一斉に手元のパソコンに向かい、会場にはキーボードを打つ音が響く。発言を聞きながら、瞬時に文字していく光景だ。ノートにペンでメモを取る記者は、今ではほとんど見当たらない。手書きよりもデジタル入力の方が速く、正確だという感覚が、すでに当たり前になっているように思われる。

かつては日本の学校でも、国語の授業で書写や硬筆を学ぶのと同じように、英語でも筆記体を丁寧に書く訓練が行われていた。しかし近年では、中学校で英語を学び始める際に、筆記体を体系的に学ぶ機会はほとんどない。英語を書く場合でも、活字体を自己流に崩した文字が一般的になっているようだ。背景には、英米圏そのものが以前ほど筆記体を重視しなくなっていること、そして何よりパソコンやスマートフォンの急速な普及があるだろう。

日本語であれ外国語であれ、私自身は手書きでメモを取るのが得意ではない。後で見返しても、いわゆる「みみずが這ったような字」「かな釘流」で、自分でも判読できないことが少なくない。パソコンが今ほど普及していなかった頃、ロシア人から手書きのメモや手紙を受け取ると、その文字の判読に苦労することがしばしばあった。ロシア人にもうらって、ようやく文字が分かるということも珍しくなかった。

しかし一方で、ロシア文化における手書き、特に筆記体の美

АБВГДЕЁЖЗИЙКЛМН
ОТРСЋУРХЦУШИЏЭЂОј adige
ёжцијклинојрстурахџиџиќиња

しさに感嘆させられた経験も数多くある。会議や講演会で同席したロシア人が、発言を聞きながら、升目のノートに流れるような筆記体で瞬時にメモを取る姿を目にすると、その書字能力の高さに驚かずにはいられなかつた。学校での文字筆記の訓練の成果をそのまま映し出しているように見えた。ロシアも現在、学校で筆記体を学ぶが、以前ほど厳格ではなくなっていると聞く。

19世紀ロシア文学に目をむけると、ゴーゴリの『外套』の主人公、下級役人アカーキー・アカーケヴィチの仕事は、ひたすら清書を行うことだった。文字を正確に、美しく写すことが、職業として成立していた時代である。もし彼が21世紀の現在に生きていたなら、パソコン操作に熟達した事務の専門家として活躍していたかもしれない。あるいは、彼の職務そのものが消え、居場所を失っていた可能性もある。

デジタル化は世界共通の流れであり、日本もロシアも例外ではない。しかし、文字を書くという行為に込められたなにかが失われるようで、消えゆく手書きを前に、これで良いのかなという思いも胸に少し残る。

シルクロード2か国の人々との音楽交流の旅

角崎 悅子

10月末から11月初めまでの9日間、カザフスタンとウズベキスタンでの音楽交流の旅に参加した。カザフスタンのアルマトイでは、ジャンブイル記念カザフ国立アカデミーフィルハーモニーにて交流コンサートを開催。T・アブドラシェフ記念カザフ国立アカデミー交響楽団をクアニシュ・イスマイロフ氏が指揮し、ソリストは日本人アーティスト5人。プログラムは以下の通り。

- ①ジュバーノヴァ：ヴァイオリン協奏曲より第一楽章、及び ②ユダコフ：ポエム（ヴァイオリン：勝村麻由子）
- ③和田薰：三味線協奏曲「四響譚詩」より第三楽章「風粹狂」（三味線：簗田弘大）
- ④アルチュニアン：トランペット協奏曲（トランペット：辻本光邦）
- ⑤大栗裕：オーボエと弦楽合奏のためのバラード（オーボエ：宮村和宏）
- ⑥保科洋：「祈りそして戯れ～光のもとの～」オーボエと鼓と管弦楽のための（鼓：望月太左一郎、オーボエ：宮村和宏）
- ⑦アンコール曲：「さくらさくら」（宮村和宏編曲）

開演前には、ロビーでの三味線+鼓のコンサート、茶道・将棋・折り紙ワークショップで日本文化を体験できるコーナーもあった。

アル・ファラビ名称カザフ国立大学での交流会では、カザフスタンと日本の作品の聴き比べ、「三味線」と「鼓」の紹介、「春の海」のフルート演奏に続き、茶道のデモンストレーション

ンをした。

ウズベキスタンのタシケントでは、アリシェル・ナヴォイ記念国立アカデミー大劇場にて交流コンサートを開催。ウズベキスタン国立交響楽団をアリベック・カブドゥラフモノフ氏が指揮し、ソリストは日本人4人（三味線の簗田氏を除く）。開演前には、ロビーで茶道や折り紙、将棋などの日本文化体験コーナーを設けた。

ナヴォイ劇場は1947年に建立したが、その建設には日本人抑留者数百名が関わった。1966年に起きたタシケント大地震では、8万棟近い建物が倒壊したが、この劇場は無傷だったとの美談が伝わっており、劇場の外壁には建設に関わった日本人を称えるプレートがある。コンサート前には、日本人抑留者が眠る墓地を訪れ、感謝の気持ちを伝えるとともにご冥福をお祈りしてお線香を供えた。

タシケント名門のウスペンスキー音楽学校では、ソリスト達が日本の音楽紹介をした。最後にウズベキスタンで人気の曲「アンディジャン・ポルカ」を演奏すると、生徒たちが口ずさんだり手拍子で楽しんでいた。更に、第30番特別支援児童養護施設という孤児院も訪問し、「荒城の月」や「さくらさくら」などの日本のメロディーを数曲披露して子供たちと楽しい時間を過ごした。

国際文化交流を通して現地の方と触れ合い、日本文化への理解促進・友好関係強化に貢献できることは本当に嬉しい。今回のプロジェクトを企画・実施された国際文化交流プロジェクト委員会に感謝申し上げたい。



明けましておめでとうございます



<p>在日ロシア連邦大使館 特命全権大使 ニコライ・ノズドリエフ 〒 106-0041 東京都港区麻布台 2-1-1 Tel:03-3583-4224 Fax:03-3505-0593</p>	<p>在日キルギス大使館 特命全権大使 オソエフ・エルキンベク 〒 108-0073 東京都港区三田1-5-7 Tel:03-6453-8277 Fax:03-6453-8279</p>
<p>在日ロシア連邦通商代表部 通商代表 ニコライ・オフシャンニコフ 〒 108-0074 東京都港区高輪 4-6-9 Tel:03-3447-3281 Fax:03-3447-3221 E-Mail:tokyo@minprom.gov.ru facebook.com/TradeRepr.of.Russia.in.Japan</p>	<p>NPO 法人 日本・ロシア協会 〒 106-0041 東京都港区麻布台 3-4-10 麻布誠工社ビル 3F A号室 電話 :03-5797-7081 FAX:03-5797-7082</p>
<p>在日ロシア連邦大使館 国際人道協力連邦庁(ロシア連邦交流庁)在日代表部 在日代表 K. ヴィノグラドフ 東京都港区麻布台 2 丁目 1 番 1 号 電話 03-3583-4224 Fax:03-3505-0593</p>	<p>日本ユーラシア協会 会長 斎 藤 治 子 〒 156-0052 東京都世田谷区経堂 1-11-2 電話 03-3429-8231 Fax:03-3429-8233 E-mail: info@jp-euras.org http://jp-euras.org/ja</p>
<p>有限会社 ロシアンティ 代表取締役 岩 橋 和 治 東京都台東区浅草橋 1-6-2 Tel/Fax:03-3863-3226</p>	<p>日本対外文化協会 〒 108-8619 東京都港区高輪 2-3-23 東海大学品川キャンパス 3 号館 2 階 電話 :03-6277-4209 FAX:03-6277-4210 https://www.taibunkyo.jp</p>
<p>ナウカ・ジャパン合同会社 代表 村上 直 隆 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34 Tel:03-3219-0155 Fax:03-3219-0158 https://www.naukajapan.jp</p>	<p>シベリアから体に優しいものにこだわっている会社  代表取締役 菅 野 エ レ ナ 〒 223-0052 神奈川県横浜市港北区綱島東4-6-8-706 Tel/Fax:045-567-8107 E-mail: e-kanno@globalwish.net https://www.globalwish.net</p>



今年もどうぞよろしくお願ひいたします



<p>NPO法人日口交流協会 会長 ロシア文化フェスティバル日本組織委員会 委員 服 部 文 男 nichiro@nichiro.org</p>	<p>NPO 日口交流協会 副会長 江 守 元 彦 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>
<p>NPO日口交流協会 副会長 帝京大学 経済学部 観光経営学科 教授 中小企業診断士（沖縄県中小企業診断士協会所属） 博士（商学）岡崎好典 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>	<p>NPO 日口交流協会 副会長 千葉麻里 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>
<p>特定非営利活動法人 日口交流協会 常任理事 小川久美子 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>	<p>NPO 日口交流協会 常任理事・事務局長 江本大輝 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>
<p>NPO 日口交流協会 理事 須田毅 NPO 法人ドルチェ邦楽合奏団 副理事長 相模原市議會議員 〒252-0334 相模原市南区若松 1-13-9 Tel/Fax042-743-6284 E-Mail: sudatakesi@paw.hi-ho.ne.jp http://www.paw.hi-ho.ne.jp/sudatake</p>	<p>NPO 日口交流協会 常任理事 山田雄康 ロシア民謡を楽しむ会 東京都港区麻布台 3-4-14-4 E-mail: nichiro@nichiro.org bassdomra@ozio.jp</p>
<p>NPO 日口交流協会 理事 土屋正彦 東京都港区麻布台 3-4-14-401 E-mail: nichiro@nichiro.org</p>	<p>NPO 日口交流協会 顧問・理事 朝妻幸雄 日口経済交流コンサルタント 東京都港区芝3丁目34番1-807 Tel: 03-3452-1560 Mob: 080-2047-7182 e-mail: y.asazuma@gmail.com</p>



皆様のご健康と幸せをお祈りいたします



<p>日露青年交流センター 事務局長 城 芳 久 〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目17-14 西新橋エクセルアネックス TEL:03-3509-6001 E-mail: info@jrex.or.jp</p>	<p>NPO 日口交流協会 専務理事 日 向 寺 淳 一 〒 174-0041 東京都板橋区舟渡 3-19-7 コスモ板橋蓮根 201 TEL:03-3969-6503 Mob:090-5445-2236 E-Mail:hyugaji@kenbun.org</p>
<p>在イルクーツク日本情報センター ЯПОНСКИЙ ИНФОРМАЦИОННЫЙ ЦЕНТР センター所長 セルゲイ・オディイネツ 664003,РОССИЯ,г.ИРКУТСК,ул.СУХЭ-БАТОРА,16</p>	<p>東京医労連 健康文化会医療労働組合 執行委員長 川 口 寛 和 〒 174-0051 東京都板橋区小豆沢 1-6-4 アパートメントあづさわ 1F TEL:03-3968-8137 FAX:03-3966-6107 E-mail:rouso@kenbun.org</p>
<p>露日協会 アルタイ支部 会長 ヴヤチェスラフ・ノボセロフ 副会長 ユリア・クニヤシキナ Г.Барнаул,656048,Ул.4 я Малиновая, д.56 http://project6084057.tilda.ws</p>	<p>ロータリークラブ 「サラトフセンター」 会長 ナタリヤ・ポポワ https://www.facebook.com/SaratovCentre</p>
<p>ロシア語クラス生徒募集中！ ベテラン教師陣 ・コルド・ナタリヤ ・スニトコ・タチヤナ ・ボロビエフ・ウラジーミル ・鮑島 亘 *プライベート、オンラインなど要相談</p>	<p>Пусть в этом году исполнятся твои загаданные мечты! С праздником!</p>
<p>* 広報部は皆様からの情報、ご意見等 お待ちしております。活動などへの アイデアもぜひお寄せください。 nichiro@nichiro.org</p>	



今年もどうぞよろしくお願ひいたします



<p>露日協会 会長 ガリーナ・ドゥトキナ https://russiajapansociety.ru</p>	<p>ハバロフスク対外友好協会「すずらん」 理事長 ゾーヤ・ロイトマン https://www.rusprofile.ru/id/1401575</p>
<p>オレンブルグ国立大学 日本情報センター センター長 リュドミーラ・ドカシェンコ Pobeda Abe., 13, Orenburg, Russia https://jc.org.ru/ru/index/</p>	<p>露日協会 エカテリンブルグ支部 支部長 オリガ・アキメンコ http://ru-jp.org/orya.htm</p>
<p>日本文化センター「ハマナス」 会長 ナタリヤ・ソボレワ 682860, Russia, Khabarovsk territory, Wanino</p>	<p>露日協会 サラトフ支部 支部長 マリーナ・ジヤコワ Tel : 8-917-201-71-21</p>
<p>サンクトペテルブルグ 露日友好協会 事務局長 ニーナ・ツベトコワ 60, Leninsky street, 191025, Sankt-Petelburg</p>	<p>クラスノダール日本センター「改善」 センター長 オリガ・アンドレエワ http://jckk.ru/</p>
<p>NPO 《ウラル露日協会》 会長 ザニン・ヴァディム zanin.vadim@gmail.com</p>	<p>ロシア文化教育センター グロバス センター長 ナタリア・ベレゾフスカヤ https://www.globus-jp.net</p>